社会福祉法人 隆生福祉会 季刊誌 Vol.28

ゆめだより

Smiles and Dreams for All

2018年 冬号
2018.1.20 発行

●社会福祉法人 隆生福祉会
〒546-0013
大阪市東住吉区湯里 1-3-22
tel 06-6701-5820
fax 06-6705-5108
http : // www.smile-yume.com

HEAD LINE

●新年のご挨拶
●出版記念 隆生・HANAKO 国際交流セミナー開催
●Finland視察・実習
●保育園へのご寄付
●第4回ゆめリンピック
●ゆめパラフェスタ開催
●夢を叶えるプロジェクト

あけましておめでとうございます

社会福祉法人 隆生福祉会
理事長 藤本 加代子

昨年は「もう3Kとはいわせない 5Kといわれる介護施設の秘密」（PHP研究所）の出版や、テレビ番組「賢者の選択 Leaders『ONE'S STYLE』」の出演を通し、隆生福祉会の取り組みが高く評価され、外部に発信される機会を多数いただくことができました。また、多くの方々が施設見学にお越しくださり、お誉めの言葉をいただきましたことは、職員のモチベーションを高め、大きな励みとなっております。

介護部門では、昨年つくりあげて参りました「ゆめ式介護」—ご利用者様に優しく寄り添う介護（"Care Me Tender"）—を徹底するため、職員の研修を更に充実させて参ります。また保育部門では、世界のトップレベルを走り続けるフィンランドと同様に、発想力・表現力・思考力・コミュニケーション力を磨き、世界に羽ばたく子どもの育成に力を入れて参ります。

今後もよりよいサービスが提供できますよう、また、隆生福祉会の合言葉「もっとたのしく!もっとはっぴぃ!!」の実現に向け、職員一丸となって邁進していく所存でございます。

皆様、ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

2017年11月22日

出版記念「もう３Ｋとはいわせない ５Ｋといわれる介護施設の秘密」
隆生・ＨＡＮＡＫＯ 国際交流セミナー 開催

於・リーガロイヤルホテル大阪 光琳の間

厚生労働省中央労働委員会
事務局長 苧谷 秀信 氏

HANAKO国際交流プロジェクトリーダー
シリエ・ハッシネン 氏

「介護ロボットが、ご利用者様・職員の未来を変える」をテーマとし、第一部では、メーカー様のご協力を得て、隆生福祉会で活躍中の介護ロボット14種類を展示。

第二部では、国、企業、大学、そして介護現場、それぞれの立場より、講演・発表が行われました。フィンランドからは隆生福祉会との交流や福祉分野における最新テクノロジーについて発表がありました。

そして、大和ハウス工業株式会社 会長の樋口武男氏、大阪大学大学院の石黒浩教授から頂きましたオリジナルビデオメッセージが、巨大スクリーンで放映されました。　（詳しくは内面の記事をご覧ください）

大和ハウス工業株式会社
会長 樋口 武男 氏

大阪大学大学院 基礎工学研究科
教授 石黒 浩 氏

写真提供：大阪大学

登壇者

厚生労働省 中央労働委員会 事務局長	苧谷 秀信 氏
厚生労働省 老健局 高齢者支援課 福祉用具・住宅改修指導官	小林 毅 氏
大和ハウス工業株式会社 上席執行役員	田村 哲哉 氏
ATR 石黒浩特別研究所 存在感メディア研究グループ グループリーダー	住岡 英信 氏
株式会社テレノイド計画 代表取締役	宮崎 詩子 氏
パナソニック株式会社 エコソリューションズ社 エイジフリービジネスユニット ロボット・リハビリ事業開発部 部長	河上 日出生 氏

フィンランド代表 登壇者

HANAKO国際交流プロジェクトリーダー	シリエ・ハッシネン 氏
トレドゥ職業学校 福祉テクノロジーワーキングチームリーダー	ニーナ・エスコラサリン 氏

出版記念「もう３Ｋとはいわせない　５Ｋといわれる介護施設の秘密」

隆生・ＨＡＮＡＫＯ 国際交流セミナー 開催

参加者 410名

会場 リーガロイヤルホテル 光琳の間

VR認知症体験

テレノイド

リラックスチェア

展示会では、介護ロボットのメーカーの方の説明と、隆生福祉会のエスコートの生の声をお聞きいただきながら、実際に触れて体験いただきました。日々使用しているエスコートから、具体的な使用方法や感想を直接お聞きいただくことで、「介護ロボットを、身近に感じることができた」と、たいへん好評でした。中でも、「リラックスチェア」・「VR認知症体験」・「テレノイド」は、驚きとともに、称賛の声が多数寄せられました。

セミナーでは、国・企業・大学、そして介護現場、それぞれの立場からの発信が全て循環し、有機的に結びついて、メッセージを伝えることができました。また、フィンランドからは、隆生福祉会との交流と、福祉分野における最新テクノロジーについて発表がありました。

そして大和ハウス工業株式会社の樋口武男会長からは、10年近く続く隆生福祉会とフィンランドの交流について、「この最高の国際交流に敬意を表します」とのメッセージをいただきました。

大阪大学大学院の石黒浩教授からいただいたビデオメッセージでは、教授ご本人の他、教授と瓜二つのジェミノイドや、「エリカ」、「テレノイド」が登場して会場を沸かせました。

その後、隆生福祉会における介護ロボットの使用実例紹介等が行われた後、エスコートで結成された“ゆめガール”によるダンスが披露され、成功裏に終了いたしました。

セミナー終了後の出版記念パーティーでは、PHP研究所 取締役 櫛原吉男氏よりお祝いのご挨拶を頂戴いたしました。福祉関係に留まらず、官界、財界、産業界、学界など各方面から多数ご臨席賜り、盛大に催されました。

PHP研究所 取締役 櫛原 吉男 氏

展示一覧

- リショーネPlus （パナソニック株式会社）
- 床走行式電動介護リフト （パラマウントベッド株式会社）
- スタンディングリフト イージーアップ （アビリティーズ・ケアネット株式会社）
- 移乗サポートロボット Hug （富士機械製造株式会社）
- 免荷式リフト POPO （大和ハウス工業株式会社）
- シルエット見守りセンサ （大和ハウス工業株式会社 キング通信工業株式会社）
- リラックスチェア （株式会社プロアシスト）
- VR認知症体験 （株式会社シルバーウッド）
- テレノイド （株式会社テレノイド計画）
- ハグビー （株式会社京都西川・東洋紡STC株式会社・ATR）
- 転ばないス （フランスベッド株式会社）
- カバーリングファッション （一般社団法人ダイアローグ・メソッド・アソシエーション）
- Pepper （ソフトバンクロボティクス株式会社）
- メンタルコミットロボット パロ （大和ハウス工業株式会社）

11月5日～18日 Finland視察・実習

藤本理事長をはじめ、総勢6名がフィンランド・タンペレでのHANAKOセミナーに出席いたしました。今回のセミナーは“Technology and people in future working life（将来の労働環境におけるテクノロジーと人）”をテーマに、オランダ・エストニア等の国際ネットワークであるウェルネステクノロジーネットワークとの共同開催。各国より将来の労働環境で必要となるスキル、福祉テクノロジーの開発、実践する上での倫理感等の発表がありました。隆生福祉会は日本代表として、導入している様々な介護ロボットと、厚生労働省「介護ロボットの導入効果実証研究事業」の実績を紹介し、高い評価を受けました。

セミナー後は、エスコート2名が高齢者施設、保育士1名が保育園での実習に参加いたしました。日本との違いに驚きながらも、たくさんの刺激を受けて帰国いたしました。今後は、先にフィンランド実習を終えた職員達と共にチームを組み、それぞれのフィンランドでの経験をこれからもよりよい形で生かせるよう、検討・実現して参ります。

ゆめ中央保育園

株式会社フェイス様・山陰合同銀行様より ご寄付

10月30日、昨年に引き続き、株式会社フェイス様・山陰合同銀行様より、「子ども達の健やかな育成のために」と、たくさんのおもちゃをプレゼントしていただき、その授与式が行われました。

プレゼントのブロックで作った、三輪車やロボット・怪獣を前に、ぞう組の子ども達から、お礼の歌を披露させていただきました。いただいた電子ピアノの演奏にのせて、ふりを付けて元気いっぱい歌う子ども達に、ニコニコ笑顔で聞いてくださるお客様。昨年よりもたくさんお越しいただいて、子ども達も大ハッスル。その姿に、ご自分の小さい頃を思い出され、「とても懐かしいです」と、おっしゃってくださいました。本当にすてきなプレゼントをありがとうございました。

ケアテク・８Ｓ・感Ｄｏ！ ３つの種目で介護の頂点を目指せ！

第4回ゆめリンピック開催

@大阪城南女子短期大学 坂上記念ホール

ケアテク優勝
ゆめあまみ3Fチーム

ゆめリンピックは、組織の活力と団結力の向上を目標としており、今回で4回目の開催となりました。

介護技術向上を目的とした「ケアテク」、整理・整頓など全8項目で職場の改善を目指す「8S」、ご利用者様や子ども達の感動のための企画を競う「感Do!」の3つの競技種目があります。

▼ゆめ都島 8S発表
「乱れを正し 事故をふせGO!」

「ケアテク」では、スライディングボードを利用した移乗介助、片麻痺を設定した更衣介助を行う2人で1チームとし、予選を勝ち上がった6チームで決勝が行われました。声かけや介護技術など厳正な審査の結果、見事「ゆめあまみ3F」チームが優勝しました。「8S」では、『忘れ物ゼロ大作戦』や『食べ残しゼロへの挑戦』などの様々な取り組み、「感Do!」では、『ゆめを持って歩こう!～ようこそ奈良へ～』、元美容師だったご利用者様のゆめを叶える『スタッフの髪を切ってあげたい!』など様々な感動プロジェクトが発表されました。

特別審査員としてすべての競技・発表をご覧くださった大阪城南女子短期大学 教授 前田崇博氏からは「介護技術の科学性が前回より高まっていた。それぞれの取り組みや発表も素晴らしく、未来の福祉への光明を感じられるものだった」とのご講評のお言葉をいただきました。

大阪城南女子短期大学
教授 前田 崇博 氏

▲ゆめパラティース 感Do!発表
「ゆめを持って歩こう!～ようこそ奈良へ～」

ゆめパラティースフェスティバル開催

9月17日、特別養護老人ホームゆめパラティースにて、ゆめパラティースフェスティバルを開催いたしました。約200名の方にお越しいただき、施設全体が華やかなパーティー会場に変わりました!

ご利用者様、ご家族様には、スタッフ手作りのコサージュ、職員によるアカペラをプレゼントさせていただきました。今年も恒例のファッションショーを開催し、ご利用者様は一段とお美しくなった姿で職員とともにランウェイを歩いていただき、会場全体が笑顔と感動に包まれました。

大阪保健福祉専門学校×隆生福祉会

夢を叶えるプロジェクト

～結婚式を写真に残したい!～

10月26日、特別養護老人ホームゆめパラティースのご利用者様ご夫婦の結婚式が行われました。

大阪保健福祉専門学校の学生の皆様による「夢を叶えるプロジェクト」で考えられたもので、ご利用者様の思いに耳を傾け、その夢を叶えることも介護の仕事のひとつということを実感してもらおうという取り組みです。今回は「結婚式は挙げたが、写真がない。思い出の写真が欲しい」というご夫婦のお話から、学生の皆様と職員の協力で実現いたしました。

純白のウエディングドレスに身を包んだ奥様と白の蝶ネクタイを結んだご主人が、正装した2人のご子息に見守られる中、ゆめホールのバージンロードを進むと、参列してくださったご利用者様からは祝福の紙吹雪が贈られました。続いてケーキ入刀、手紙の交換が行われ、学生の皆様よりハンドベルの演奏が贈られた際には、奥様が時折目元を拭う様子も見られました。学生の皆様のひたむきな頑張りにより、会場が感動に包まれ、結婚式は大成功でお開きとなりました。

ご利用者様、ご家族様、そして学生の皆様の心からの笑顔に職員一同心を打たれ、介護の仕事のすばらしさを改めて認識するたいへん良い機会となりました。

新年のご挨拶

昨年は、厚生労働省の「介護ロボットの導入支援及び導入効果実証研究事業」にて、全国6施設のうちのひとつに、ゆめあまみが採択され、国の事業に協力をすることができました。他にも様々な介護ロボットを導入し、その必要性を認識するとともに、介護現場の課題に対するソリューションとして有効的に活用できることを改めて実感いたしました。

今後も、ゆめあまみでは、いち早く施設に合った介護ロボットを導入し、ご利用者様・職員の双方にとって、より安心・安全な支援ができますよう、本年も努力して参ります。

特別養護老人ホーム ゆめあまみ　施設長　寺本 節子

ゆめパラティースは、おかげさまで開設5年目を迎えます。

昨年は、書籍「もう3Kとはいわせない 5Kといわれる介護施設の秘密」を高く評価いただき、全国各地より多数の方が施設見学にお越しくださいました。「職員の笑顔と対応が素晴らしい」とお誉めのお言葉をいただき、大変光栄なことと喜んでおります。

今年は、ご利用者様に更に喜んでいただけるよう、職員一人ひとりが「考えて行動する力」すなわち「現場力」を高めて参ります。ご家族様に「パラティースへお願いすれば安心」とおっしゃっていただけるよう、職員一同、一丸となって努力して参ります。

特別養護老人ホーム ゆめパラティース　施設長　藤本 章代

介護保険制度開始と共に歩み始めたゆめ都島は、今年で18年目を迎えます。その間、制度変更やご利用者様のニーズの変化に対応して参りました。特に昨年は10月にフィンランド製のリハビリマシン3台を導入し、機能訓練のさらなる充実を図りました。次年度の制度改正では、ご利用者様の機能回復、すなわち介護度の軽減に繋がるサービス内容の充実を一層求められる事になります。

ゆめ都島の最大の売りである「明るく楽しく」の中に、ご利用者様にとって、より実りの多いサービスをご提供出来るよう、職員一同努力して参ります。

淀川地域在宅サービスステーション ゆめ都島　施設長　大野 義典

おかげさまで、ゆめ長居公園は今年開設13周年を迎えます。昨年デイサービスでは、フィンランド製リハビリマシンを3台導入し、機能訓練のニーズを満たすことが出来ました。グループホームでは、季節に応じたイベントを開催し、大変喜んでいただきました。また、外出の機会を増やすことで、地域との交流・繋がりを感じることのできる生活支援をいたしました。

本年4月には介護保険法が改定され、事業所として大変厳しい状況に直面する事が予測されます。私たち職員一同は、「ご利用者様に喜んで頂く」という『おもてなしの心』の基本に立ちかえり、ひとつずつ目の前のできることから取り組んで参ります。

デイサービスセンター・グループホーム ゆめ長居公園　施設長　岡田 恵介

中野地域包括支援センターは、いわゆる団塊の世代が75歳となる「2025年問題」を前に、平成28年4月から認知症強化型地域包括支援センターとして、今までの地域包括の業務に加え、東住吉区全体の認知症にかかる課題に取り組むための事務局の役割を担っております。もちろん認知症の課題は、今までも地域・行政・専門職がそれぞれの立場で取り組んで参りましたが、東住吉区の認知症施策としてそれらを一体的に推進し、より効果的に展開する事が求められていると思います。そのためにも職員一同、心をひとつに努力して参ります。

東住吉区中野地域包括支援センター　センター長　米田 直美

私たち、都島区北部地域包括支援センターは、地域の高齢者の方々や関係機関の皆様にとって、身近で頼って頂けるセンターを目指し運営しています。最近では色々な場面で一緒に活動することも多くなり、連携が深まっていることを実感しております。

今年は、介護・医療保険制度の同時改正が予定されております。医療ニーズ・認知症・障害など、様々な課題をお持ちの高齢者の方に対して適切に対応できるよう、職員ひとりひとりの対応力を高め、地域から信頼される地域包括支援センターを目指して参ります。

都島区北部地域包括支援センター　センター長　松木 涼子

今年4月よりスタートする改訂保育所保育指針。子ども達が社会に出てからの、くじけないたくましい姿を見据えた乳幼児期に必要な関わり方・援助が示されています。

改めて『三つ子の魂百までも』の言葉通り、私共が大切にして参りました保育・教育を、これまで以上に職員ひとりひとりが意識できるよう、細やかな研修体制づくりに取り組んで参ります。

そして、次なる10年目のステージへ向かって、職員全員一致団結して飛躍できる足固めの年として参りたいと存じます。

ゆめ中央保育園　園長　大谷 五十鈴